

<白金標準、需給要因から 9500 円以下は買いの域か・・・>



(出所：オアシス)

南アフリカのケープタウンでアフリカ最大の鉱物投資会議が開催され、シバニースチールウォーターの CEO はプラチナ価格について「価格は引き続き変動し続けると思います」と述べ「でも、1年前の低基準には戻らないと思う。それは低すぎる。それは持続不可能だった」と発言している。またヴァルテラ・プラチナム社（旧アングロ・アメリカ・プラチナ）の CEO によれば、「電気自動車（EV）の普及が予想より遅れていることが、今後数年間にわたりプラチナ族金属（PGM）の供給不足を継続させる要因となる見込みだ」と発言している。また「現在の PGM 価格は、新規鉱山プロジェクトで合理的な収益を得られる水準に近づいている」と指摘しつつ、新規開発を支えるには価格の高止まりが持続すべきだと述べている。特に2月25日から3月4日に向けヴァルテラ・プラチナム社、シバニースチールウォーターなどの企業決算の発表、WPICの第4四半期 PGM 需給報告などが控えており、現在のプラチナの需給バランスに対する見通しを示す可能性が高く、注目される要因である。そのため白金標準先物においても 9500 円以下は2月の終値で3回しか示されていないことから下値の抵抗を高めて来る可能性は高まっており、10000 円の回復が待たれると思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が下げ渋り、**シグナル** も下げている。RCI では**短期**が下げながら、**長期**も下げている。ただ日足と指数平滑移動平均線のレンジを下回っており、10000 円を回復するか注目されると思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取 3,114,000 円(2026 年 2 月 16 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 118,800 円(2026 年 2 月 16 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>